

神々の古事記
本殿（右殿）

「誓約」

海原を治めよと命じられた建速須佐之男命は、命令に従わず日々泣きわめいていました。その理由を父神の伊邪那岐命が尋ねると、母のいる根之堅洲国へ行きたい。と答え父神を怒らせました。そして、国を追放された命は、姉神の天照大御神に挨拶をしてから母の国に行くことにしました。高天原の上ってくる弟神。これは良く無い事が起きると思つた姉神は、戦支度をして待ち受けました。私はけつして姉神に背くつもりはありません。との言葉に、二神は誓約を行うことにしました。姉神は、弟神の十拳剣を噛み砕き、ふつと吹き出して三柱の女神を、弟神は、姉神の勾玉を噛み砕き、ふつと吹き出して五柱の男神を生みました。



廣峯神社本殿に向かって左側、右殿にお祀りする八柱の王子神たちは、誓約により誕生した神々なのです。神社を創建した吉備真備公の定める暦神として見ると、素戔鳴尊と奇稲田媛命の間に誕生した神々となります。暦では、奇稲田媛命が恵方に座し、八王子神が凶方位を守護すると言われている。三女神は、海の神様で、漁業、海運の神と崇められ、五男神は、農耕神の父神と同じように、農業の神様として信仰されています。また、市杵嶋姫命は七福神で知られる弁財天であり、正哉吾勝々速日天忍穗耳尊は皇室の祖神でもあります。